

おだひろし 大和市議会議員
元産経新聞記者

小田博士の 市政かわら版



6月・9月議会

時短で一般質問復活 7月には臨時会

コロナ禍での異例運用続く

我が国を揺るがせている新型コロナウイルス感染症についての報道がめっきり減りました。政府は旅行業や飲食業の復活に向けてGOTOキャンペーンを展開しています。

大和市議会では、議員一人当たり原則30分以内で一般質問を行っていますが、3月定例会では中止しました。コロナが一時より収まってきたことを踏まえ、6月議会では一派30分以内、9月議会では



三密回避で本会議出席者を減らした9月定例会

一人20分以内という時間短縮措置で一般質問を復活させました。ただ、三密回避のため出席議員は半数強とし、通常は部長以上全員が出席する市側の出席者も必要最小限に減らしています。大変残念ではありますが、やむを得ません。

なお、異例ではありますが7月にも臨時会を1日開催し、コロナ関係の補正予算案を審議し、可決しました。

新型コロナウイルス 一般質問要旨

【6月議会】

Q 市の基本的な考えは？

A 感染症への対応は国や県が対策を進めるが、基礎自治体はきめ細かな対策ができる。今後も引き続き必要な対策に取り組む。

Q 補正予算に対する考えは？

A 必要経費は補正予算措置を基本としつつ可能な限り迅速かつ柔軟に対応している。今後も地方創生臨時交付金をはじめとする国の補助制度も活用しながら予算を適切に確保する。

Q 施設の閉館・休館に関する考えは？

A 国の方針や県の要請に基づくとともに市内の感染状況を踏まえ総合的に判断したい。

Q 小中学生の学習の遅れを取り戻すための取り組みは？

A 教科の年間指導計画の見直しを何度も行い、学習内容重点化などの工夫をして準備を進めてきた。体験的な学習についても必要に応じて

工夫して取り入れることで、貴重な学びの場を提供できる。今後も放課後寺子屋やまを効果的に活用するなどきめ細かな指導を通して継続的な支援を行う。

Q 今後の学級経営は？

A 学校では教室の座席の間隔を離したり3密を避けたりするなど身体的距離を確保する工夫を行っている。感染症対策の正しい知識を身に付けさせ子供たちの心の触れ合いを大切にしながら学級経営を行うよう努める。

Q オンライン教育についての見解は？

A 準備を進めるとともに、すべての児童生徒の学びを保障できるよう環境を整備する。

Q 震災、台風発生時の避難所運営は？

A 避難所への密集を避けるため、真に避難が必要な方に避難していただくこと、友人宅等への避難者同士の十分な感覚を確保することや、避難者の感染予防の徹底、体調が優れない方の専用スペース確保などを実施する。

【9月議会】

Q 本市におけるリスクマネジメントの考えは？

A 近年、自然災害だけでなく感染症など多様化した新たな危機が発生している。基礎自治体である本市はこれまでと同様、市民の皆様の生命、身体、財産を守り安全安心な市民生活が送れるよう可能な限り様々な施策を展開することこそ最重要と考える。

Q リスクと向き合う教育を導入しては？

A 今後も、発達段階に応じて児童生徒が的確に情報を把握し、主体的に考え、状況を踏まえて判断、行動できるよう取り組んでいく。

Q 感染不安を理由とした自主欠席の状況は？

A 平常授業が再開した7、8月の2カ月間に感染不安を理由に学校を休んだ1日の平均児童生徒数は小学校では1校あたり2名、中学校では1校あたり約1名となっている。感染予防策や教育相談で不安解消に努めている。

リスクを適正評価

社会経済を回して

9月議会の一般質問では、リスクマネジメント（リスク管理）についての本市の考え方を問い質しました。

リスクマネジメントにおいてはリスクと便益との比較、リスクと他のリスクとの比較が重要とされます。ご案内の通り、新型コロナウイルス感染症をめぐっては、対策を強化して自粛が過度になると、社会経済を回すという便益が失われます。

感染症リスクに対する他のリスクで代表的なのは自殺者です。社会経済が機能しなくなり飲食、旅行、サービス業などへの打撃が収まらなければ、自殺者数が増える可能性もあります。

今年6月までの3カ月間、全国の婚姻数は前年より3分の1減りました。人と人との接触機会が減れば、生命の誕生は減ります。民間シンクタンクからは、コロナの影響で出生数が1割減るとの予測も出ています。来年の出生数は、80万人を割るかもしれません。これも隠れたリスクと言えるでしょう。

リスクマネジメントにおいては、リスクがまったくない「ゼロリスク」は現実的ではなく、目指すべきではないと指摘されています。人類が

撲滅した感染症はわずかです。幸いにも日本の感染症死者は諸外国と比べて圧倒的に少ない状況にあります。必要な感染症対策をとりつつも、過度に恐れることなく、社会経済を回し、元の日常に戻していくことが求められているのではないかと。議場ではこんなことを訴えました。

全国の死者数と主な死因（令和元年）

死因	死亡数	死亡率 (10万人対)
総数	138万1093人	1116.2
悪性新生物(がん)	37万6425人	304.2
心疾患	20万7714人	167.9
老衰	12万1863人	98.5
脳血管疾患	10万6552人	86.1
肺炎	9万5518人	77.2
不慮の事故	3万9184人	31.7
腎不全	2万6644人	21.5
自殺	1万9425人	15.7
糖尿病	1万3846人	11.2
インフルエンザ	3575人	2.9

厚生労働省の人口動態統計（確定数）に基づき筆者作成

Topics

自民党大和連合支部 政調会長に就任

自民党大和市連合支部の政調会長に就任しました。コロナ禍だったため、例年6月ごろの連合支部年次総会は書面開催となりましたが、それをもって承認されました。

連合支部、市議会会派の政策担当の中核メンバー

として今後も努力を重ねます。

若手市議の会を卒業

超党派の若手市議会議員で構成される議連「関東若手市議会議員の会」を8月に卒業しました。

同会では神奈川県代表を務めていましたが、入会資格が45歳の年度までなので、後継にバトン

タッチしました。研修など同会で学んだことは、一般質問にも生かしてきました。今後は様々な機会を通じて別途、調査研究を続けていきます。

ウェブ「論座」に寄稿

朝日新聞社が運営するウェブ論壇サイト「論座」(<https://webronza.asahi.com/>)の執筆陣に加

わりました。5月21日には「『マスク着用条例』アウトかセーフか」、8月27日には「安藤キャスターバッシングが見失っているもの」と題したコラムを掲載しています。

編集部の方から依頼があり、発信の場が広がるのは有難いことだと捉えて快諾しました。出稿は不定期です。

◆プロフィール

大和市議会議員（2期目）／昭和50年1月5日生まれ／大和市出身／福田在住

高座みどり幼稚園→西鶴間小学校→南林間中学校→中央大学附属高校→上智大学経済学部

◆産経新聞記者（16年間）当時の職歴
整理部→千葉総局→社会部→政治部

◆特技・資格 居合道三段、防災士

【12月議会】

大和市議会の令和2年12月第4回定例会は、11月25日から12月21日まで27日間の日程で開催されます。

一般質問は12月14、15、16日に行われる予定です。気軽に傍聴してください。

◆市議としての役職（令和2年5月～）

環境建設常任委員会委員長
基地対策特別委員会委員
相模原二ツ塚線及び水産座間線建設促進協議会委員

◆その他の主な活動

自民党大和市連合支部政調会長・広報局長
自民党神奈川県連 市町村議員協議会幹事
大和中央シティライオンズクラブ
隊友会
金毘羅神社神輿会
HPはこちらから↓

